

一般教養中国語選択履修学生の中国語学習に関する意識

大 沼 正 博

いわゆる一般教養の中国語を選択して履修している学生、つまり第二外国語として中国語を学んでいる学生の意識や関心を知りたいと思い立って、アンケートをしてみた。その際に二種類のアンケートを作成して実施し、そのひとつについてはすでにまとめて発表した⁽¹⁾。しかし、今回発表する分は集計に手間取り発表が遅れてしまった。やや時間が経ち過ぎてしまったかも知れないが、時間の経過とは関係なく意味を持つ調査結果もあると思い遅まきながら発表することにした。ここから得られる情報がこれからの中国語の授業を展開していく上で、多少なりとも資するところがあれば嬉しいことである。アンケートの質問を七項目にまとめて分類し、アンケートの集計結果をまず提示してから、それに論評を加える形で論述を進めていきたい⁽²⁾。

・ 中国への関心

1) 「中国」についてすぐ思いつく言葉、単語、名詞などを5つ書いて下さい。

質問1) についての回答は531例挙がった。回答の中で一番多かったのは中国語の単語、常套句を答えたもので110あり全回答の5分の1強を占めた。これらの中国語が学生にとって本当に印象深かったのか、他の回答を考えるのが面倒だったので、習って記憶に残っている中国語を手っ取り早く書き記して済ませてしまったのかは、疑問が残る所である。次に多いのは料理を挙げたもので86ある。中国料理と書いたものが最も多いが、ラーメン、餃子、チャーハンなどが目立ち、よく知られた料理や軽食の名前を書いたもの、お茶と書いたものがある。ラーメン、餃子、チャーハンは今では「中国」料理と言えるのかとも思うが、その元を辿って考えればやはり「中国」のものと言えるのだろう。

地名を答えたものは74、人名を答えたものは20ある。地名は北京、上海などの都市や河川など現代の地名がほぼすべてで、歴史的なものは三国志演義の中の国名を答えたものがあつたのみである。一方、人名は回答が少なかったがその中で16は三国志演義の中の人物で、現代のものは歌手、俳優である。学生の中国の地名と人名に関する知識がこのアンケートの回答とそのまま

一致するのかどうかは、これだけで即断することはもちろんできないだろうが、学生の関心の方向を探る上では参考になる結果である。三国志を書いたものが7あるが、上記の三国志演義に関する国名、人名を含めて、これらの三国志が中国の古典小説なのか、日本の漫画やゲームなのかは不明であるが、おそらくは後者であるように思われる。

建造物を挙げているものは26で、万里の長城が21、故宮、紫禁城が5である。歴史、漢字、チャイナドレスを挙げるものが数名ずついる。動物、自然に関してはパンダが17、長江9、黄河3である。カンフー、少林寺、太極拳、雑技、マージャンは24、自転車は10、人口の多いことをあげるものは11、広い、大きいと答えたものは9ある。環境破壊、汚い、偽物、マフィア、麻薬など負のイメージを答えたものは7ある。バレーが強い、卓球、スポーツのライバルは5、社会主義、赤色は5、その他物価が安い、愛国教育、インターネット、made in China、竹、屋台などもある。授業担当の中国人教員を挙げるものがある。一人っ子政策が11、経済成長、貧富の差が4ある。対日問題、反日、遣唐使、靖国神社など日中関係を意識したものは12である。

授業で習った中国語が多く挙げられているのは、授業以外では余り中国に関心を示すことがない証左なのかも知れない。料理もごく日常的な身の回りのものへの関心である。地名、人名などもゲームなど自分の生活の範囲内で知ったものようだ。現実の中国へ目を向けたものでも、中国の政治、経済、社会などの現状について書くものは少ないように思われる。

2) 中国について一番関心のあることは何ですか。

質問2) は一つ以上答えたものと、答えないものが出て合計では116の回答があった。

もっとも多いものは中国料理、食文化、茶と答えたもので36ある。次いで多いのは歴史で26ある。三国志、4000年の歴史が各1、なぜか殷以前、宋と書いたものが2、文革と書いたものが1ある。伝統と答えたものを含めると、やはり悠久のとか、古い歴史への関心の傾きが強いのかも知れないが、ほとんどが歴史としか書いていないので確定はできない。経済発展など経済に関するものは12、対日関係、国際関係など政治を挙げるものは7、中国語や漢字は7、文化的なことや社会現象は15、スポーツ5、建造物4、などが挙げられている。日中関係などの生々しい話題はあまり挙げられていない。ここの回答を見ても、現状の中国への関心はさほど強くはないように思われる。

質問1)、2) については中国語学習の前と後で相違があるのかないかを調べれば、その相違の有無と授業の影響などについて、いっそう興味深い調査結果が得られるかも知れない。後出の質問5) では中国語の学習後、半数弱の学生が中国への関心が強まったと答えている。しかし、その三分の一は中国語について述べているもので、中国そのものへの関心とは少し離れているようだ。文化、料理への関心はこれよりもやや少ない。

．中国語を選択した理由

3) 第2外国語の中で中国語を選択した理由はなんですか。

この質問への回答は124例挙げた。役に立つという回答が目立ち、中国の経済発展や日中両国の経済的つながり、中国の将来性を見込んだものなどを含めて、中国語の実社会での有用性に期待するものが45例で圧倒的に多い。次に、漢字が使われていることを挙げるものが多く、これは中国語学習が他の外国語学習に比べて容易であると判断した根拠であると思われるので、これに単位が楽に取れそうという学生の切実な？願望を挙げるものを合わせると25例になる⁽³⁾。近い国という回答は13例である。これは身近で親近感を抱くということと、近い関係にあるので使用する頻度が高いという実用性の面も意識されているのだろう。他に日本語に近いという回答もあった。興味があるという回答が12例あり、これも日中両国の関係の近さを表しているようである。話したいとか楽しかったという中国語学習そのものへの関心を示す回答が9例あり、楽しかったというのは一年間の学習の経験を踏まえての2年生の回答であろう。行きたいという回答は4例であったが、これは多くの回答者が考えていることでもあろう。質問4)の回答を見れば一目瞭然である。

4) 中国語を学習して役立てたいこと、やりたいことは何ですか。

この質問の回答は115例挙げた。圧倒的に多いのは旅行、行きたいであり、54例である。次いで会話が17例、仕事が11例と続いている。また中国語検定試験というのが3例ある。実用的な目的を求めている学習者が実に多いことが分かる。映画を字幕なしで見たいが4例、看板や食品の説明文を含めて中国語を読みたいが8例なども広い意味で実用的とも考えられるので、これらを含めればほぼすべての回答者が即効的な実用性を求めていることになる。もっとも、質問自体が実用的な回答を求めているので、回答がこういう傾向をもつことは当然とも言える。その点から考えると、旅行、会話とか、字幕なしの映画鑑賞、看板や食品の中国語説明を読むなどは、趣味的な目的に過ぎず、大して実用的ではないとも言えよう。むしろ仕事や中国語検定試験など、積極的な実用性を求める学習者が極めて少ないと言うことができるかも知れない。中日友好や中国人との交流を答えたものは6例あり、その中には中国人に物申すというものもある。

．中国語学習の結果

5) 中国語を学習してから中国についての関心が強くなった。

A. はい 56 47.9%

B. いいえ	13	11.1%
C. どちらでもない	48	41.0%

どんな点：

中国語学習の結果中国への関心を強めた学生が半分弱というのを、どう判断したらよいのだろうか。多いと考えるのか、少ないと考えるのか、どちらが適当なのかが分からない。中国語の授業ではまず言語の運用能力の獲得を目指すことを主目標としていることは言うまでもないが、しかしその過程を通して学生が中国への関心を深めて欲しいとは、すべての教員が期待していることであろうから。

「どんな点」を答えたものは51ある。自由記述なのでまとめにくいだが、中国語が難しいというものや漢字の違いなど中国語についてあげるものが17で、これは中国語に直接触れて、中国語についての知識を得た結果といえる。しかしこれはこの質問の趣旨からは外れている。文化、料理などは15で、中国語についての回答とこれのふたつが目立つ。一方、ニュース、日中関係はサイト、テレビを見る、は6と非常に少ない。現実の中国には興味がなく、教科書や授業から得た情報に大きく偏っているようだ。中国人と話す、(中国の)現状、住む、話を聞く、看板や放送の中国語への関心がそれぞれ1、行きたいが2である。

6) 中国語を学習してから中国についての理解が深まった。

A. はい	47	40.5%
B. いいえ	16	13.8%
C. どちらでもない	53	45.7%

どんな点：

理解が深まった学生が40.5%に止まっているのは、教える側にとってはやはり期待はずれの数字であろう。質問5)についても述べたが、中国語の授業は言語の知識、運用能力の習得を目指すものであって、中国についての理解を直接に求めるものではないが、折りに触れて中国に関する情報を提供して学生の中国理解を深めようと試みているはずだからである。

「どんな点」を答えたものは36あった。回答はまちまちであるが、文化が10、生活が5、性格が4、などが目立つ。日中両国の使用する漢字の異同を挙げるものが3ある。思ったより発展している、日本と同じ雰囲気、名古屋のようなビルがあるという回答もある。「C. どちらでもない」については、中国語が未熟だからというものや、理解より使えるようになりたいというものがある。

7) 中国語を学習してから中国への親近感が増した。

A. はい	46	39.7%
-------	----	-------

- | | | |
|------------|----|-------|
| B. いいえ | 19 | 16.4% |
| C. どちらでもない | 51 | 44.0% |

どんな点：

親近感を増した学生が約4割というのはやはり少ないように思う。この質問についても質問5) 6) についてと同じことが言えるので、この数字を少ないと考えることが妥当なのかは判断に苦しむが、いずれにしても多い数字と考えることはできないだろう。普通はその国の言葉を学習するとその国への親近感が増すと期待されるだろう。したがって、中国語学習者一般が親近感を増さないのか、それともアンケート対象者の学生が親近感を増さなかったのかを検討してみるとは興味深いと思われる。

「どんな点」を答えたものは36あった。漢字を挙げたものが7あり、日本文化の源流を挙げたものが3ある。このなかには漢字が中国から来た、単語が同じと答えたものがある。同じ文字を使うことはやはり親近感をもたらすようだ。中国語が分かるが7、話をしたが3ある。アナウンスやテレビが分かる、中国語を見ると嬉しい、中国人女性と話した、留学生と親しくなったという答えが含まれる。中国語の知識獲得が具体的に実感できたり、実際に活用できたことによって中国への親近感が増したようだ。知識が増したのが2ある。中国人の先生の人柄を挙げるもの、先生の話に興味を持つ、中国人に対し親近感を持つ、好きになったというものがある。(中国人は)日本好きが多く自分の考えが変わった、温かい心に触れたという答えもある。中国についての知識や情報を増やし、具体的な経験をすることが、親近感を持つきっかけとなるようだ。一方「C. どちらでもない」について、なじめない、個々人ではないが国家間は違うという回答がある。また、(親近感が)もともとあるという回答もあった。

8) 中国語を学習してから、日中関係についてより深く考えるようになった。

- | | | |
|------------|----|-------|
| A. はい | 23 | 19.8% |
| B. いいえ | 22 | 19.0% |
| C. どちらでもない | 71 | 61.2% |

どんな点：

この質問に関しても上の三つの質問と同様に中国語の授業の目的との兼ね合いの問題があるが、それにしてもA.の回答率が上の三つの質問と比べても極端に少ないように思う。B.の「どんな点」で、こういう問題は苦手という回答があるが、これが多くの学生の本音であって、それがA.の回答率の極端な低さに現れているのかも知れない。そこでの回答には、日中関係のニュースを見ない、意識していない、という回答もある。

「どんな点」を答えたものは25である。中国の反日デモ・反日感情が4でまとまっているが、歴史教科書、靖国問題、東シナ海ガス田・領土問題など時事的なことが挙げられている。しかし

関心の向く先の問題点はいろいろ挙げられているが、いずれも日中間の関係の改善を望んでいるようである。冷たいのは政府間だけで他は熱いというのがある。悪印象を持たれることは過去の日本を考えるとやりきれないというものもある。日中関係の改善をどうしたらよいか、争いが起きないで欲しいという答えがある。きっかけとして、先生の話からというものがある。「尖閣列島」を「竹島」と間違えている答えもある。B. で回答したものは上述したほかに、ドキュメンタリーは見るようになったという答えがある。C. での回答は、仲良くして欲しいが2、元から考えている、もともと関心がある、(授業が)「会話」のみで知る機会ない、分からないが各1であった。これを見るとC. を選択した学生が必ずしも日中関係に関心がないわけではないということも推測できる。他の質問でも同様の可能性が考えられよう。「会話」のみで知る機会がないという答えは、授業の方式と教科書の内容を指摘しているのだから、授業で目指していないものを求めるのは、確かに無い物ねだりでもある。けれども授業の中で、教員は中国についてのいろいろな情報や知識を学生に伝えたいと考え努力している。したがって授業の目的についてのさらなる検討、確認が必要となるだろう。

上の四つの質問からは、中国語を学習しても中国への関心、理解を深めたものは半数に達しないし、親近感を増すものは四割に満たない、さらに日中関係を考えるようになったものは二割にも満たないという結果が出た。まったく個人的な問題として片付けられる「関心」から「理解」へと進み、より相手を見つめなければならぬ「親近感」を越えて、現実問題として一番どろどろしている「日中関係」へと、相手との関わりが深まらざるを得ないことになるほど、急速にA. を答えるものが減っていくようだ。日中関係についても深く考えるようになったかを尋ねているだけで、行動の有無を問題にしている訳ではないのだが、これらの回答からは彼らが関わり方の濃さを避ける傾向があるように思われる。

9) 中国でしてみたいことを丸で囲んでください。(いくつ選んでも良いです)。

旅行	106	72.6%
留学	11	7.5%
仕事	10	6.9%
住む	6	4.1%
やりたいことはない	6	4.1%
その他:	7	4.8%

この質問では複数回答を認めたが、アンケート対象者116名に対して回答数は146であった。複数回答者が意外に少ないと思われるが、選択が旅行に集中していて、留学、仕事など積極的な活動を選択するものが少ないことと関係していよう。もっともアンケート対象者が一般教養の第二外国語としての中国語履修者であるので、中国での留学を考えるものが約一割いることを、む

しろ多いと考えるべきかも知れない。また1年生が4割弱を占めているので、この段階での自分の中国語の語学力を冷静に判断すれば、仕事を選択した割合もむしろ高いといえるかも知れない。

ちなみに1年生だけ45人の回答の割合を見てみると、旅行76.9%、留学7.7%、仕事1.9%、住む3.8%、やりたいことはない7.7%、その他1.9%になる。その他と答えたものは世界遺産の仙人の山を見るというものなので、これを旅行に加えれば旅行は78.8%になる。全体の結果と比べると仕事とその他の割合が低くなっている。語学力の自信のなさ、中国についての具体的な知識、情報が上級生よりも少ないことの反映と考えられる。ただし、全体のその他に挙げられているのはマージャンをする、中華料理を食べる、チャイナドレスを着るなどで、たいしたものはない。見当違いの回答もある。中国語を役立てるといふ答えなどは実にまっとうと言えよう。

・ 授業について

10) 初級の教科書は会話形式ですが、もっと中国の文化、社会を紹介する形式の方が良いと思いますか。

A. はい	45	38.8%
B. いいえ	43	37.1%
C. どちらでもない	28	24.1%

理由：

賛否は拮抗している。つまり教員がどちらの形式のものを選んだとしても必ず大きな困難を抱え込むことになるということである。実に頭の痛いことであるが、授業の展開のなかで不満を持つ可能性のある学生に対して、その要求にも応える試みをしていく必要に迫られているということである。回答が見事に三分割されていることは、一面では総体としての学生の志向が、バランスの取れた健全なものであることを示していると考えられよう。

理由を挙げているものはA. 33, B. 30, C. 11でこれも見事に三分割されている。まず目立つのは、会話形式は易しいと考えているもので、B. を選んだ理由のなかにこれに含まれるものが12ある。まず会話からが2、会話は基本が1、これらもこれに含めれば合計15になる。一方、文化、社会紹介形式のものは難しいと考えられているようで、B. を選んだ理由のうちに、文化は難しいが3、文化、社会は応用でやるのが良いが1ある。さらに、A. を選んだ理由のなかに、易しい文章なら良いが1あり、C. を選んだ理由のなかにも、会話形式は分かりやすいが文化、社会にも興味があるが1ある。会話形式のものが易しく、文化、社会を紹介するものが難しいという思い込みは間違っているが、多くの学生はこういう先入観に捉われているようだ。次に、B. を選んだ理由のなかには会話が実用的というものが10ある。この結び付け方は一般に広く受け入れられているので、学生が理由としてあげることは理解できる。ただし、日中間の交流が盛ん

になったので中国人と直接会話する機会が増えてきたのは事実だが、他方で多くの人々にとっては書かれた中国語を読むことのほうが多いのが実際ではないだろうか。本、新聞、雑誌などに加えてインターネットなども含めて考えれば、実用的イコール会話という発想は、あまりに一面的に過ぎないだろうか。

A. を選んだ理由のなかに、中国を身近に感じ中国語への関心も増すが2あり、このように中国語の学習意欲に言及するものが、会話だけではつまらない、生活を知ると会話をやる気になる、学ぶ意欲が高まるなど合計で9ある。これらは中国語学習に真面目に向き合っている意識の高い学生の意見であると考えたい。文化を知りたい、知ることは良いことだという類を挙げるものは12あり、中国語はもちろん文化に対しての関心を示しているものも多い。そして、言葉だけでは理解できない、会話も大事だが文化の学習には向かないがあり、社会について会話したいというものもある。ここまでの内容を持つ会話もう易しいものではとうていありえない。

C. を選んだ理由には、会話と文化がともに必要が3あり、会話文にも文化、社会の紹介が含まれている、会話は大切でそこに少し文化を取り入れると良いなどがある。これから見るとC. を選んだ理由はどちらも必要で、どちらか一方だけでは簡単には決められないということのようである。B. を選んだ理由のなかに、教科書は今のままでよい、文化、社会は先生が教えてくれるというものがある。要するに、教員の授業の展開方法如何では、教科書の不足を補い、学生の要望に応えることが可能であるということになるだろう。いずれにしろ、学生には会話への志向と文化、社会など知りたいという欲求の両方があることを理解しておく必要がある。後出の質問28)を見ると文化、社会に歴史などを加えたことを知りたいという学生の要求はもっと高い割合になるようだ。

11) 中国語の授業でもっとやって欲しいことは何ですか。

この質問の回答は自由記述であるが、回答数は108であった。もっとも多いのは、文化、習慣、歴史などの紹介で、現在の状況、少林寺拳法なども含めると26ある。次いで多いのは、なしの19であるが、このうちの10は1年生の回答である。これをどう解釈するべきかは迷う所である。質問に「もっと」という語があるので現在の授業で満足しているからなのか、あるいは授業そのものに全く興味が無いからなのか。ここではどちらか一方に判断する材料がない。1年生の回答率が高いのは、何を要望したら良いのかについての知識がまだ無いということかも知れない。

会話、対話の授業を要求するものは16である。これにはリスニング、生の中国語に触れるなども含める。この種の希望は常に多いが、実際に会話形式の授業を円滑に進めていくのは非常に困難であると予想される。一般教養の中国語の授業ではさらに困難が伴うであろう。この希望を実現できればそれに越したことはないが、学生の中国語の知識と性格、意欲など考慮するとかなり難しそうである。

映画やビデオ、中国のテレビの紹介は12である。写真、音楽なども含む。映像を見せるだけならばこの要望には比較的応えやすいが、限られた時間でいかに効果的に手際よく紹介できるかが問題になる。授業の進度をもっとゆっくりとし、分かりやすくしてくれというものも12である。日本語訳を黒板に書く、練習問題、ピンインが挙げられている。日本語訳の板書や既出のものピンインを要求するなどは学習意欲の現れと見てよいのか、怠惰に過ぎないのか判断に苦しむ。どちらにしてもまるまる教員頼りであることだけはよく理解できる。今のままで良いは11ある。前出のなしのうちにこれに加わるものがあるかも知れない。発音は7ある。これは人数が多いせいもあり、もっと丁寧に指導してあげたいができていないので、こちらも心しいと思うものである。しかしその前提として、語学授業にふさわしい受講学生数の教室規模の実現はどうしても必要である。また、どうにも学習に関心を示さないものに対処する方法も考えなければならぬ。あとは検定が1、進め方よくないが1である。

25) 中国語の授業で一番印象的だったことを書いて下さい。

回答数は100。一番多かったのは中国の現状、社会や文化を知ったことのように21ある。食物について知識を得たり、先生の話から得た情報が新鮮だったのだろう。次は映画を挙げるものが12ある。やはり映像の印象は鮮明なのだろう。しかし、「なし」がこれと同数の12ある。教える側の反省すべき力量不足、方法不適切なのか、それとも授業に興味を示さない学生がこう回答しているのだろうか。難しいと答えたものが11あり、発音、聞き取り、ピンインなどを指摘したものがあつた。また、発音を挙げたものが8、四声を挙げたものが6、ピンインを挙げたものが3ある。この三つの合計は17になるが、難易はともかくとして、日本語はもちろん英語とも著しく異なる中国語の発音は確かに印象深かったと思われる。歌が5、ビデオが2というのは授業で紹介された中国のそれであろう。授業方法を挙げたものが6あり、進め方が下手、内容が無いなど厳しい指摘もある。さらに、日中の漢字が異なるが4あり、中国語には漢字しかないが2ある。漢字の相違はともかくとして、中国語が漢字だけで表記することは、教えている身には当たり前すぎることになってしまっているが、驚きを覚える学生がいることに改めて新鮮さを感じる。名前が日中同じなのを挙げたものも1あつた。

28) 中国に関するものでどんな授業があればよいと思いますか。

具体的に：

回答数は90であつた。一番多かったのは文化を挙げたもので14、また歴史が11ある。さらに、社会が5、日中関係が4ある。これに料理の6、メディア1、文学1を加えると合計42になる。これは意外にも思えるが、現在中国語の授業で使用している教科書はほぼ全て会話形式のもので、その中にも中国の現況や文化などを教科書作成者は紹介しようと努力しているのだが、学

生はもっと中国語の背景にあるもの、中国語の使われている舞台について知りたいと考えているようだ。これらの回答の多さには正直驚いた。中には語学学習を負担に感じて、文化などの話題に逃れたいと願うものもいるかも知れないが、前出の質問 10) の回答からそういう可能性もあるかも知れない。

中国人との会話を含めて会話が 13 あり、中国人による授業が 4 ある。これには実際の中国のもの実物教材と書いたものもある。旅行が 8 あり、旅行の準備、中国で学ぶなどの回答を含んでいる。これら三つはいわゆる会話形式の授業を希望していると思われる。留学生の話が 1 あるが、これは現状、文化などの紹介と会話とを兼ねることになる。映画が 10、音楽が 1 ある。これも音声教材と中国の情報入手を兼ねている。要求なしは 4、今のままで良いが 1 あった。残りは広東語が 2、学校のテスト勉強、中国語検定対策、毎日授業がそれぞれ 1 である。

この節の回答から見ると、多くの学生は中国語を喋れるようになりたいと望んで会話形式の授業を希望することは当然推測できるが、その一方では中国語を話している人々のことや、中国語が話されている社会の現状、文化、歴史を理解したいという強い意欲を持っていることが分かる。

・身の回りの中国

12) 中国についての情報を何から得ていますか。(いくつでも答えて下さい)。

回答数は 176 であった。もっとも多いのはテレビの 62 である。ニュースの 14 もおそらくテレビニュースの占める率が高いと思われるので、テレビの影響力は非常に大きいと考えられる。これは後出の質問 16) でも言えることである。次いで新聞が 24、インターネットが 23 である。新聞の落ち込みとインターネットの伸びとがここでも見られるようだ。それぞれのメディアから利用者がどのような姿勢で情報を得ようとするかによって違いはあるだろうが、利用の仕方によっては表面的で煽動的なメディアの情報により強く流されやすくなる危険性も含まれているようだ。メディア 3、雑誌、本が 9 挙げられている。注目すべきは先生、教科書を含めて授業が 21 挙げられていることで、やはり教室は学生が中国についての情報を得る貴重な機会であることを我々は認識しておくべきであろう。教室ではつとめて正確、正当な情報を伝え、冷静に中国を見る目を獲得させる努力をもっと心がける必要があるだろう。親を含めての親戚知人が 6、中国人が 5 ある。中国人は先生、留学生、知人、バイト先(の同僚?)が挙げられている。これらは中国との交流の広がりだが、普段の生活のなかにも浸透していることの現れであろう。その他は映画が 5、無いが 4 である。

19) 普段中国製品を使っていますか。

A. はい 85 73.3%

B. いいえ	2	1.7%
C. 分からない	29	25%

何を：

この数字は予想通りであろう。C. の回答者の中に一例だけ記述回答したものがあり、具体的には不明と答えているが、これは実際には使用しているがどれがそうなのか明確に特定する自信がないということだろう。「分からない」をそういう意味に解釈すれば、C. を選んだものも実際には使用していると考えるのが理にかなっているようだ。また、B. を選択したのも一例だけ記述したものがあり、日本製品は信頼できる（服は中国製）と書いている。回答としては矛盾しているが、これを見ても、すべての回答者が実際には中国製品を使用していると思われる。

中国製品を記述した回答は 109 例で、挙げられた中国製品は実に多種多様である。けれども例示というので何かを答えてはみたが、それぞれ 8, 2, 1 の回答数がある「いろいろ」、「ほぼ全て」、「多くて分からない」、というのが本当のところだろう。挙げられたものをみると、服が圧倒的に多くて 52。靴が 5、マフラー、バッグが各 2 はこれに類するもの。食物については食品が 2、にんにくが 1 と極めて少ないが、次に続く質問の「20) 中国産の食品を食べたことがありますか。」では食品を答えることになるので、ここでは食品を避けてこういう結果になったのかも知れない。しかし中国製品を意識するときには、食品よりも衣服類や電化製品、文具などの方がより目について印象が強いとも考えられる。家電製品が 8、文具類が 4、雑貨が 3 あるが、あとは自転車、パソコン、時計、CD・DVD、アニメグッズ、アミューズメント景品、人形と雑多である。

20) 中国産の食品を食べたことがありますか。

A. はい	65	56.0%
B. いいえ	6	5.2%
C. 分からない	45	38.8%

何を：

前の質問 19) の中国製品の使用と比べると A. を選択したものが少ないが、昨年初めの農薬汚染の冷凍餃子事件報道の過程で明らかになったように、製品の材料として使われているものも多いので、衣料品などに比べると気が付きにくいのかも知れない。そういうことも含めて C. が選ばれているのかも知れない。C. の選択者の中の 3 人が記述回答しているが、そこには「中華風」は何なのか、有るかも、母は中国産きのこを買わない、と書いてありとてもおもしろい。

記述回答は合計 70 になる。たくさん、いろいろ、ほぼ全てが 10 ある。中華料理の名前を挙げるものが合計 16 あるが、これらはここで尋ねる中国産食品とは違うように思うが、質問の表現が適切でなく誤解を招いたのかも知れない。しかし餃子や小籠包、春巻きは中国産の冷凍食品のことを言っていることもありうる。現にえびなど冷凍食品を挙げるものが 2 ある。野菜、干し

いたけなどは17であり、甘栗、月餅など菓子が10ある。やはり野菜や菓子類は多い。その他魚介類、お茶がある。

注(1)に述べたようにこのアンケートは2006年12月に実施した。上記の2008年1月に起きた中国「天洋食品」製冷凍餃子のメタミドホス中毒事件後、中国産食品への強い拒絶反応が広まったが、それにもかかわらず中国産品なしには成り立たない日本の食生活の現状も浮び上がった。そしてその事実はこのアンケートからも読み取れる。また同年末からアメリカ発の金融不況の影響が深刻化している中では、より安価なものへの要求が高まり、そこには中国産食品が含まれているようだ。そうであれば、日中間での協力の下で食の安全をより高めて信頼関係を築いていく他に進むべき道はないように思われる。

21) 中国の映画、ドラマ、雑誌、小説、書籍、音楽など文化的なものを見たり、読んだり、聞いたことがありますか。(翻訳されたもので構いません。)

A. はい	87	75%
B. いいえ	12	10.3%
C. 分からない	16	13.8%

何を：

A. を選択したものが多く、記述された例示を見ると、授業の際に提供されたものが圧倒的に多いようであり、学生自身が平素から中国文化に関心を示しているとは言えないようである。そういう意味ではA. の割合の高いことを素直には喜べないとともに、質問12)でも述べたように、学生が中国に関する情報を得る場所としての授業の果たす役割の大切さが再度確認される。

B. を選択したもので唯一の記述回答者は、授業で見たもののみと書いている。

記述された回答は合計で112ある。そのうちで映画に属するものが60あり、最も多い。その多くは授業で紹介されたものようであるが、カンフーもの、キョンシーなど香港映画には自分で見たものがありそうだ。歌に関しては21あり、授業で聞いたものもあるが、女子十二楽坊などは他の機会に聞いたものではないか。女子十二楽坊は8あり、台湾の歌手名を書いているものもある。三国志(演義)は11と多く、封神演義2などとともに、小説ではなく漫画やゲームであると思われる。史記1、孫悟空1もある。魯迅の作品、阿Q正伝、藤野先生各1は、中学や高校の国語で習っている可能性が高いので、むしろ妥当な回答であろう。中国語版名探偵コナン、中国語版アニメ各1は、授業で紹介されたものであろう。

22) あなたの一番身近にいる中国人はどんな人ですか。

具体的に：

回答数は102である。中国語の先生というのが43で一番多い。これは意表を衝かれたが、考

えてみればごく自然な答えである。本学でも中国人の先生方に多くの授業を担当していただいているし、他の大学でも似た状況にあると思われるから、学生にとっての一番身近な中国人はほかならぬ中国語の先生になるわけだ。留学生が15、友人が7あり、学校内での中国人との接触が非常に多いことが分かる。さらにバイト先で出会う人が4、近所の人、店員が6あり、日常生活の中で中国人と出会う場面が増えていることが伺える。親を挙げたものも1あった。無しも11あった。カンフー映画の俳優名を挙げたものが3あった。

反日感情なくやさしい、わがままだが憎めない、フレンドリーでマイペース、頑固者、陽気、自転車によく乗るなどの回答があったのは、質問文の表現がそういう回答を求めるようにも読めるために出てきたものだろう。これらの回答からも学生たちが日常的に中国人と接しているらしいことが伺える。そして紋切り型の評価を押し付けて見るのではなく、個人的な経験と感覚から中国人の性格を判断していることも理解できる。これからの日本人が抱く中国人観はこのようにして、中国人総体として論じるのではなく、個々の人間として見ていく、普通の人間関係の中で下された個々の人間についての評価に換わっていくことと思われる。そしてそれはまったく望ましいことでもある。

・ 日中関係について

13) 現在の日中関係についてどう思いますか。

良好だと思う	1	0.9%
まあ良好だと思う	15	12.9%
どちらとも言えない	27	23.3%
あまり良好だと思わない	43	37.1%
良好だと思わない	18	15.5%
分からない	11	9.5%

14) 日中関係は現在より改善すべきですか。

改善すべき	87	75%
現状でよい	15	12.9%
より悪化してもかまわない	0	0%
分からない	14	12.1%

15) 日中関係は将来どう変化すると思いますか。

好転する	24	20.7%
------	----	-------

悪化する	25	21.6%
分からない	67	57.8%

このアンケートは2006年末に実施したが、当時の日中関係は経済取引は盛んだが政治関係は冷え込んでいる、いわゆる「政冷経熱」状態にあった。日本では小泉首相が、中国、韓国などの批判をものともせず執拗に靖国神社参拝を繰り返したことが象徴的であった。中国側では04年のアジア・カップサッカーでの日本チームへのブーイング、05年に各地で起きた反日デモなどが続いた。こういう状況を踏まえてこの三つの質問への回答を検討すると、当時の一般的な世論動向と同じような傾向を示していると考えられる。

質問13)の日中間系が良好とまあ良好の合計が13.8%、あまり良好でないと良好でないの合計が52.6%は、確かにそういう状況にあったと言えよう。質問14)では改善すべきが75%で、これも多くの国民の希望と一致するであろう。ことに一層の悪化はひとりも望んでいない。質問15)の将来予測については、日中関係問題の専門家も査として分からなかったのではないだろうか。とにかくはっきりしていることは学生が日中関係が良くあることを望んでいるということである。

16) 一般の中国人は「反日感情」を持っていると思いますか。

A. はい	44	37.6%
B. いいえ	22	18.8%
C. どちらでもない	27	23.1%
D. 分からない	24	20.5%

理由：

理由を記述したものは合計71で、そのうち1はA. B. にまたがるもの。A. を選択したもので記述したものは35ある。そのうちで日本の侵略戦争を挙げたものが9ある。中国の反日教育を挙げるものが6ある。テレビで見たというのが8あり、これもテレビで見たと思われるが反日デモを挙げるのが3ある。旅行での扱いひどかったからが2ある。(中国人は)過去にこだわりすぎ、親から言われていると、中国側の姿勢を問うものや、日本人が中国人を好きでないから中国人もそう思う、被害の記憶はずっと残る、日本は謝罪せずに嫌われることをしていると、日本側を問うものもある。また、全員ではないがというものもある。

中国人が反日感情を持っていると判断する根拠として、日本が過去に侵略戦争をしかけて被害を与えたからやむをえないとする日本側に原因があるとするものと、中国がいつまでも反日教育をするからだ中国側に原因があるとするものとに分かれている。反日感情が存在する事実はテレビの報道から確認していることになる。質問12)でもそうだったがテレビの影響力は大きい。旅行の経験はそれが直接的な反日行為だったのか、単に一般的な不快な出来事だったのかの確認

が必要だろう。

B. で理由を挙げたものは 12 ある。中国で暖かく迎えられた、留学生、友人の中国人は日本を嫌っていないという経験に基づくもの、反日教育にも限界がある、デモ = 反日が疑問、一部を報道しすぎという冷静な判断がある。全ての人が持つとは思えない、自分が持っていないからというのもあった。

C. では 15 の記述があるが、人それぞれで持つ人も持たない人もいるに類するものが 12 になる。勝手な思い込みである、反日はあるが一般人は深く考えていない、メディアに踊らされる人はいるがそうでない人もいるが各 1 である。D. では 8 の記述がある。反日は過去に対して・持つ人もいれば持たない人も、靖国に関心があれば持つというものや、行ったことがないから（分からない）、人それぞれだからというもの、留学生からは感じない、ニュースは反日だが（日本に来る）留学生もいる、持つ人もいるが日本好きもいるなどがある。

四つの選択肢を通じて、人はいろいろ、それぞれ違うという類の、人の多様性を認めているような記述が多いのは印象深かった。このような情緒的にひとつの方向へ流されることへの抵抗に成りうるような感覚は貴重なものであると思う。特に相手との関係を考えていく時には非常に大切なものである。

17) 一般の日本人は「反中感情」を持っていると思いますか。

A. はい	12	10.3%
B. いいえ	67	57.3%
C. どちらでもない	22	18.8%
D. 分からない	16	13.7%

理由：

この数字を見てまず気が付くのは、前の質問 16) と A. B. の割合が逆転していることである。しかも差は拡大している。多くの日本人は、中国人の考え方については間接的な情報によって判断せざるを得ないのはもちろんだが、日本人自身についても自分が直接付き合う範囲以外についてはやはり間接的な情報に基づいて判断せざるを得ないはずだ。それなのに中国人は「反日感情」を持ち、日本人は「反中感情」を持たないと判断できるのは、随分とおかしなことではないか。中国人は日本人とは全く別の範疇の存在であるという前提でもなければ、こういう結論の違いは生じるはずがない。「善」意は自分の持ち物にしたい、そして「悪」意は他人の持ち物にしておきたいという、人にありがちな身勝手さの結果としてこういう数字が出てくるのだろうか。もちろん、回答に書かれた内容を読むと学生たちはずっと好意的であることが分かるが、結果としての数字だけを見るとこういう感想を持つのである。

理由を挙げたものは合計 62 である。A. は 9 あり、反日デモをするから、中国人の犯罪が多い、

メディアが煽っているが各2ある。歴史を教えずに中国批判をする・中国と似た物同志、若者には無いが親以上の世代にはあるというものがある。

B.には35挙げられている。自分は持っていないが3,自分の周囲は持っていないが3,日本人は気にしていないが3,理由がないが2,政府以外はないが1,これらに類するものは合計16ある。また,中国に興味ないが2,一般人は政治,歴史に興味がないなど,関心のなさを指摘するものが合計8ある。さらに,日本は侵略側,日本人を許して欲しい,(日本人は)ほとんどが中国好きで仲良くなりたいたいというものがある。反中感情を持たない理由としては,友好的な基盤が大きく広がっている一方で,関心のなさが「反中」感情すら持たせないという部分も存在しているということなのだろうか。

C.は11例挙げられている。持つ人持たない人いろいろいるが7である。中国語を学ぶ人が多い,ソフト著作権以外は悪いイメージがない,事実を知らない人が言っても意味がない,中国人が日本人に良くすれば日本人の対中国イメージが良くなるなどがある。D.の記述は7であり,自分もっていない(から分からない)が3ある。靖国(参拝)賛成者は持つ,人による,半々くらい,中国に旅行したり(中国で)働く人がいる(から分からない)などがある。

18) 日中両国が健全な付き合いをしていくためには何が必要だと考えますか。

日本側：

中国側：

あなた自身：

この質問の回答は三項目合計で264あった。日本側が95,中国側が85,あなた自身が84である。自由記述なので明確に分類できないものが多々あるが大掴みに分類してみる。

日本側について。歴史教育を挙げるものは13あり,中国についての教育を変える,中国の一般人の歴史的背景を理解するなどがある。靖国問題に関するものは7で,参拝をやめて解決をはかるなど。過去の侵略について謝罪するが12,犠牲者に補償するが1ある。互いの文化を理解するが9,中国を知るが4ある。交流が4,米国だけでなく中国とも交流するが2あり,対話が4ある。協力,嫌がることをしない,譲歩,友好,態度の緩和など思いやりを挙げるものが16である。分からないが3あるが,右翼の言うことを聞かない,いちいち過敏に反応しない,つまらぬ意地を張らない・愛国と敵対は違う,内容はそのままが良いが反感を買わないような外観を配慮するなどがある。教育,反省,理解,交流と真の友好を目指そうとするものが多く,それに要らぬ波風を避けようとするものが加わる。

中国側について。まず多いのは昔のことを強調せずに現在の日本を知らせるとというのが10ある。ODAや戦後の日本の良い面を知らせるべきという。過去の歴史にとらわれすぎないが7あり,さらに未来志向でというのが3ある。歴史教育,教科書の記述,教員マニュアルを変えるな

どが8ある。日本を理解するは8, 相互の文化理解が2ある。話し合いは4, 妥協と対話が2あるが, (日本を)許す, (日本を)受け入れる, 日本の謝罪・反省を理解するが合計で7ある。さらに, 反日感情をなくす, 文句を言わない, 報道で煽らない・被害者ぶらない, あからさまな反日行為をしない, まず国内把握を(する), 一部だが(日本を)毛嫌いしない, 態度の緩和, 核を保有しない, 日本の援助を認める, 戦略的外交・内政を止めるなど, 中国への要求が挙げられている。また, スポーツ交流, 協力, 思いやり, 友好的に, 寛容に, 解決する姿勢, 相手を考えた行動などがある。中国側が採るべき行動を述べているのだから当然でもあるが, 中国側が反撥しそうな事項も散見される。けれども日本を理解して欲しいという気持ちは見て取れる。ただし, 過去を不問にして未来志向に向かおうとする虫の良さも感じられる面がある。

あなた自身について。中国を知る, 関心を持つ, 理解する, 文化を学ぶなどが合計で37あり, ずば抜けて多い。さらに中国語を勉強するというのもここに加えて良いかも知れない。交流や話し合いに類するものは16ある。自分自身についてだから当たり前だろうが, 政治に関わる回答は靖国公式参拝を止める, (中国に)謝罪し(中国が)許すことをテレビで見る, 地球全体にプラスの外交(する)を, の三つだけである。差別をなくすが2, 偏見をなくす, 中国人に暖かく, 触れ合う勇気が各1は, 数は少ないが目を引くものである。差別, 偏見の問題が意識されているようだ。中国人ではなく人間として接するが2, 特別な意識をしないが2, 中国人, 日本人の枠にとらわれないが1ある。これらは民族の細かな枠にとらわれずに一人一人の人間として相手を認めることであり, 互いの敵対感情を乗り越えていく契機になるものである。日本は良くないがいつまでも気にするのは良くない, 自分は戦争に関係ない・憎悪の対象の日本人はいない, 昔の日本人と違うとアピール, さらに中国語で中国人に言いたいことを言うもある。日本の有り方を冷静に分析して正しいことをする, 先入観を持たずに中国を知る, 中国が好きで何度も行きたいというものもある。この項目でも総じて常識的で冷静な, 日中関係を改善してゆこうとする方法が挙げられているようだ。

・ 中国語学習について

23) 中国語の学習が日本語, 英語の言葉としての理解を深めるために役に立ったと思いますか。

A. はい	26	22.4%
B. いいえ	22	19.0%
C. 分からない	65	56.0%

理由:

学習指導要領などでは外国語学習の目的のひとつに日本語の理解を深めることを挙げていたように記憶するが, ここではそういう成果は見られない。A. B. C. 三項目で理由を述べたものは

合計 32 あった。A. で理由を挙げたものは 18 あるが、中国語と英語の文法が似る、共通としたものが 5 あり、日本語との相異を理解した、比較して気付くことが多いなど、各語の相異に言及したものが 4 ある。発音が分かる、日本語が丁寧であると知る、日本語の語源を知った、訳で日本語の正しい用法を知るなどがある。B. では 10 挙げられている。別の言葉（である）、文法が違うなどが 7 ある。そこまで意識しなかったが 2 ある。英文法よりは簡単だが漢字が難しいので日本語との区別が難しいという記述は、日本語との違いを理解するほどまでには中国語の勉強が進まなかったと言っているらしい。C. は 4 例あるが、なし、実感がない、手ごたえがない、質問の意味が分からないである。本人の中国語理解の進み具合が回答に影響しているようである。

24) 日本人が中国語を学習する意義はどこにあると思いますか。

この質問の回答は 106 例あった。日中交流を挙げるものが 31 で最も多い。日中関係改善、中国語による交流、旅行などを含めるが、中国に言いたいことを言うというものもあった。次いで、文化、思想などを含めて中国を理解するが 28 で、この二つで半数を超える。漢字を挙げるものが 9、この中には日本語と中国語が似ているというものもある。ビジネスに役立つが 8、視野を広げるが 7 である。分からないが 6、ないが 3 あり、ややがっかりさせる。(中国は) 将来大国に成るが 4、隣国だからが 2、興味があるが 3 である。意義は自分で見つけるものが 1、学ぼうとすることが 1 であった。日中交流や中国理解など生真面目で前向きな事項が挙げられていて、ビジネスなど実利的で世俗的なものが意外に少ないのが印象的である。

26) 中国語を学習して良かったことは何ですか。

回答数は 101 である。中国語ができるようになったことが 46 で圧倒的に多い。

料理屋でとか、中国人と話したとか、旅行とか、サイトを見るとか、駅のアナウンス、掲示などが挙げられていて、こうした場面で中国語の知識を実感できるようだ。こういう学生の反応は考えてみれば至極もったもなことだが、数字として突きつけられると改めて気付かされる。この事実を常に記憶しておかねばならないだろう。語学学習では実際の運用能力の習得はやはり重要であり、学生はそこから喜びを得る機会を持つ可能性があるのだ。次いで、中国について知ったが 13、興味、関心が深まり行きたくなったり親しみが湧いたが 13 である。前出の質問 6) と質問 7) では、中国語学習後、「中国についての理解が深まった」が 47 で 40.5% (質問 6)), 「中国への親近感が増した」が 46 で 39.7% に過ぎなかったが、この質問 26) のここまでの 3 つの項目の回答数 46, 13, 13 の合計 72 から考えると、質問 6) と質問 7) の「A. はい」の数字は潜在的にはもっと高い可能性があると思われる。漢字の異なる用法を知るなど知識が深まり、漢字を書く機会が増えたが 8 ある一方で、ないも 8 ある。英語以外の外国語を学んだが 5、視野、知識が広がるが 5 で、楽しいが 2、日本語の語彙が増えたが 1 であった。

27) 機会があれば中国語の学習を続けたいと思いますか。

A. はい	73	62.9%
B. いいえ	5	4.3%
C. 分からない	35	30.2%

理由：

このアンケートの対象者は1年生が45名、2年生以上（ほとんどは2年生。注(1)参照。）が71名である。この質問の回答を1年生と2年生以上に分けて割合を計算し直してみると以下のような結果になる。（未回答者は1年生に1名、2年生以上に2名である。）

1年生	A. 35.6%	B. 6.7%	C. 55.6%
2年生以上	A. 80.3%	B. 2.8%	C. 14.1%

こうしてみると、学習の継続を希望しているのは2年生以上の学生達であることが明瞭になる。選択必修で選んでいる1年生と、完全な選択の中から選んでいる2年生以上との間の意欲、意識の差が非常に大きなものであることがはっきりと分かる。そのうえ、1年生は中国語の学習期間がまだ短く、知識も少ないので、継続を決心するには頼りなさが残っていることも事実としてあるに違いないと思われる。こうした状況にある1年生には、激励して自信を深めさせ、意欲を生む動機与えて学習継続を奨励することが肝腎である。また、意欲、意識の高い上級生には学習を継続できる良好な学習環境を保證することが必要である。

理由を答えたものはA. B. C. 合わせて60ある。A. では52の答えが挙げられている。話したいが11、マスターするが4、今までのことを生かしたいが4、もっと喋りたいが2、まだ初歩だから2、もったいないから2、忘れないために2など、せっかく続けた学習だからもっと進めたいという類のものが合計で31ほどある。中国に行きたいが8あり、面白いが4ある。その他中国のことを学びたいなどがあるが、純粋に語学的な関心がほとんどで、いわゆる実利的な目的を述べているものはない。非常に好感の持てる回答群である。B. は3例である。難しい、役に立たない、聞き取れるようになりたいがある。やはり学習に困難を感じると継続の意欲が削られるのかも知れない。C. で答えたものは5例ある。難しいが2、関心がない、漢字が日本と違う、他にもやりたいことがあるがそれぞれ1である。この項目でも難しさが学習継続の決断を迷わせているようである。

注

- (1) このアンケートは2006年12月に実施したものである。アンケート対象者は本学の2年生以上の学生を対象に開設されている全学共通科目の中国語科目履修者の一部と、他の私立大学の一般教養の中国語履修の1年生2クラスである。他大学の1年生は45名であり、本学の学生は71名であるが、そのうちのほとんどは2年生であり、3年生以上はごく少数である。（正確な人数は不明。）結果として、項目によっては1年生と上級生を区別せずに分析したことはまずかったようにも思う。使用したアンケート用

紙の体裁を拙論の末尾に付録する。アンケート実施に当たっては、当該クラス担当の先生方と学生に協力をして頂いた。お名前を挙げることはしないが、ご面倒をお掛けした皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。また、アンケートの集計が遅れたことをお詫びします。

同時に実施したもうひとつのアンケートは本学の全学共通科目中国語履修の一年生の一部（回答者382名）を対象に実施した。その結果は『中京大学教養論叢』第48巻第4号（通巻161号）（2008年3月）に「中国語履修者の現状についての一考察」と題して発表した。

- (2) 集計に際しパーセンテージを出すときに、無回答者のある場合にはアンケート対象者数の116を分母にした。複数回答がある場合には117を分母としたものがある。（質問16）17）など。）回答には無回答、複数回答があるので、総数が一致しないことがある。とくに自由記述の回答は分類、集計が難しいものもあり、合計数が一致しないものがある。記述回答の例示は学生が記述したままの表現ではなく、趣旨に沿って適宜表現を改めて整理している。
- (3) 前出のもうひとつのアンケート（注(1)参照。）でも「質問1）中国語を選択したときに、漢字が使われているので学習しやすいと考えた。」では77.5%が「A. はい」と答えている。中国語の選択に漢字の影響は非常に大きいことがここでも明らかである。

附録

中国語学習者アンケート

大学で受講したすべての中国語の授業について答えて下さい。

1) 「中国」についてすぐに思いつく言葉、単語、名詞などを5つ書いて下さい。

- | | | |
|----|----|----|
| 1. | 2. | 3. |
| 4. | 5. | |

2) 中国について一番関心のあることは何ですか。

3) 第2外国語の中で中国語を選択した理由はなんですか。

4) 中国語を学習して役立てたいこと、やりたいことは何ですか。

5) 中国語を学習してから中国についての関心が強くなった。

- A. はい B. いいえ C. どちらでもない

どんな点：

6) 中国語を学習してから中国についての理解が深まった。

- A. はい B. いいえ C. どちらでもない

どんな点：

7) 中国語を学習してから中国への親近感が増した。

- A. はい B. いいえ C. どちらでもない

どんな点：

8) 中国語を学習してから、日中関係についてより深く考えるようになった。

- A. はい B. いいえ C. どちらでもない

どんな点：

9) 中国でしてみたいことを丸で囲んでください (いくつ選んでも良いです)。

旅行 留学 仕事 住む やりたいことはない

その他 :

10) 初級の教科書は会話形式ですが、もっと中国の文化、社会を紹介する形式の方が良いと思いますか。

A. はい B. いいえ C. どちらでもない

理由 :

11) 中国語の授業でもっとやって欲しいことは何ですか。

12) 中国についての情報を何から得ていますか。(いくつでも答えて下さい)。

13) 現在の日中関係についてどう思いますか。

良好だと思う まあ良好だと思う どちらとも言えない

あまり良好だと思われない 良好だと思われない 分からない

14) 日中関係は現在より改善すべきですか。

改善すべき 現状でよい より悪化してもかまわない 分からない

15) 日中関係は将来どう変化すると思いますか。

好転する 悪化する 分からない

16) 一般の中国人は「反日感情」を持っていると思いますか。

A. はい B. いいえ C. どちらでもない D. 分からない

理由 :

17) 一般の日本人は「反中感情」を持っていると思いますか。

A. はい B. いいえ C. どちらでもない D. 分からない

理由 :

18) 日中両国が健全な付き合いをしていくためには何が必要だと考えますか。

日本側：

中国側：

あなた自身：

19) 普段中国製品を使っていますか。

A. はい B. いいえ C. 分からない

何を：

20) 中国産の食品を食べたことがありますか。

A. はい B. いいえ C. 分からない

何を：

21) 中国の映画，ドラマ，雑誌，小説，書籍，音楽など文化的なものを見たり，読んだり，聞いたことがありますか。(翻訳されたもので構いません。)

A. はい B. いいえ C. 分からない

何を：

22) あなたの一番身近にいる中国人はどんな人ですか。

具体的に：

23) 中国語の学習が日本語，英語の言葉としての理解を深めるのに役に立ったと思いますか。

A. はい B. いいえ C. 分からない

理由：

24) 日本人が中国語を学習する意義はどこにあると思いますか。

25) 中国語の授業で一番印象的だったことを書いて下さい。

26) 中国語を学習して良かったことは何ですか。

27) 機会があれば中国語の学習を続けたいと思いますか。

A. はい

B. いいえ

C. 分からない

理由：

28) 中国に関するものでどんな授業があればよいと思いますか。

具体的に：

(ご協力ありがとうございました。)